

農地からの情報発信が広げる推し活の輪！

—農産物への♡で元気ある地域社会を育むために—

北村 知子*
(KITAMURA Tomoko)

I. はじめに

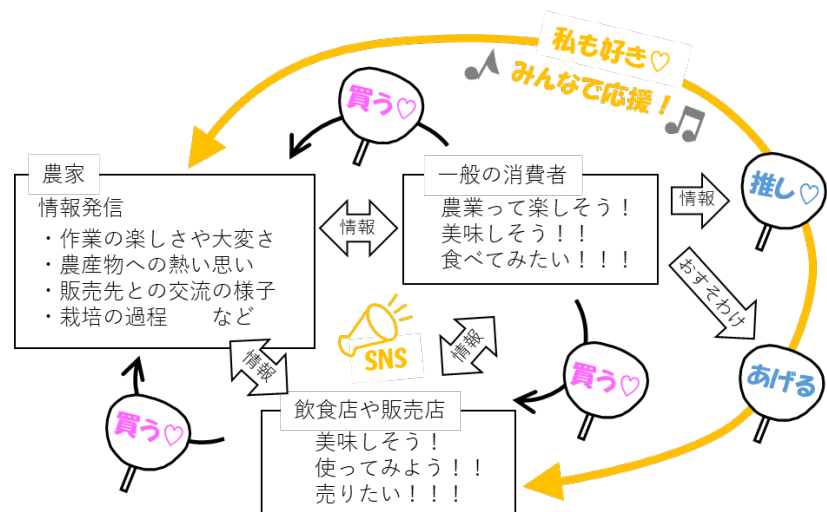
推し活は「自分が好きになった対象を応援する活動」である。推し活は楽しいだけでなく「好き」の気持ちで心を刺激し、行動的になり、孤独感が解消される等、体と心の健康に有効であるといわれる。人々はアイドル等の推し活費を捻出するため、1円でも安いキャベツを求めて遠くの店まで出かけている（予想）。しかし、推しが農家や農産物だったら、キャベツが100円高くても出費を惜しまないのでないだろうか。多くの推しを獲得するには、韓国アイドルがしているようにSNSなどを使った絶え間無い情報発信が不可欠である。申請者は、政府や行政の主導ではなく、住民の自発的な活動（推し活）が様々な産業を巻き込んだ地域の活性化を実現すると考えた。そこで、本取り組みでは、通信環境インフラを利用した農地からの情報発信とそれがもたらす農業を中心とした地域産業への効果、地域住民の意識への影響等をイメージした。

II. 目的

- ① 農業と農産物への消費者の関心を高める。
- ② 農産物の生産・消費活動を活発にする。
- ③ 生産者と消費者の連帯感を育む。

III. 想像する未来図

- ① 生産者のSNSなどによる情報発信で消費者が農産物に興味を持つ。
- ② 知ることによって愛着が生まれて、よりおいしく感じる。
- ③ 誰かに勧めたくなってSNSに投稿したりおすそ分けする。
- ④ 仲間が増えてどんどん楽しくなる。
- ⑤ 自分も農業を取り巻く地域（ネット空間を含む）の一員であると感じる。
- ⑥ 幸福度が向上する！



* 岩手大学 農学部

農地からの情報発信が広げる推し活の輪！
—農産物への♡で活気ある地域社会を育むために—

生産者

消費者

たべろ

おいしい
ありがとう

